

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回スポーツ推進審議会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和4年4月20日(水) 18時から20時まで
開催場所	801会議室
出席者	<p>会長 田中 幸夫 委員</p> <p>副会長 本橋 玲子 委員</p> <p>委員 中川 稔 委員 服部 啓次郎 委員</p> <p>檀原 延和 委員 野川 春夫 委員</p> <p>長谷川 貴広 委員 木藤 早紀 委員</p> <p>佐藤 里咲 委員</p>
欠席者	委員 樋田 和博 委員
教育長	大熊 雅士
事務局	<p>生涯学習部長 梅原 啓太郎</p> <p>生涯学習課長 関 次郎</p> <p>スポーツ振興担当課長 中島 憲彦</p> <p>スポーツ振興係主査 岡本 康夫</p> <p>スポーツ振興係主任 津田 理恵</p> <p>スポーツ振興係主事 西村 謙太郎</p> <p>ランドブレイン株式会社</p>
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可
傍聴者数	2
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	<p>1 第2次スポーツ推進計画の策定等について(諮問)</p> <p>2 会議の傍聴について、意見・提案シートの取り扱い</p> <p>3 スポーツ団体に対する補助金交付について</p> <p>4 令和4年度 スポーツに係る予算について</p> <p>5 第2次スポーツ推進計画の策定について</p> <p>6 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュール(案)について</p> <p>7 その他</p>
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

前回、まん延防止等重点措置期間中ということで、傍聴を中止させていただきましたが、小金井市市民参加条例第6条の規定により、会議は原則として公開となりますことから、今回から傍聴可能としております。

資料2を御覧ください。

会議の傍聴については、小金井市附属機関等の会議に関する傍聴要領に沿って対応してまいります。

あわせて、意見・提案シートの取扱いについてでございます。

傍聴者の方の意見を積極的に反映できるようにするため、傍聴にいらっしゃった方に資料と一緒に配付し、意見がある方から事務局に提出をしてもらう仕組みとなっております。

意見・提案シートが提出された場合は、氏名を含めて原文のまま、会議録と併せて正式資料として公開しますが、無記名の場合は、参考資料として委員へ配付するにとどめます。

また、公序良俗に反する内容等が含まれる場合は、配付は行わず、または、該当部分を墨塗りして配付するものといたします。

こちらの意見・提案シートは、会議開催日の1週間前までに提出されたものについては、次回の審議会にて配付いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議の傍聴について、意見・提案シートの取り扱いの説明につきましては、以上でございます。

田中会長

御説明ありがとうございました。

ただいまの会議の傍聴、意見・提案シートについて、何か御意見等がありましたら、挙手をして、お名前を言ってから発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、これはこれで、お認めいただいたということで、次の議題に進めさせていただきます。

(3) スポーツ団体に対する補助金交付についてと(4) 令和4年度 スポーツに係る予算についてということですのでけれども、同じような内容に関連しておりますので、この2つの議題を一括議題として取り計らっていただいて、事務局のほうから、この2つについて御説明をしていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

中島課長

それでは、議題（３）スポーツ団体に対する補助金交付についてと議題（４）令和４年度 スポーツに係る予算についてを御説明いたします。

資料３と４を併せて御覧ください。

前後いたしますが、先に、議題（４）令和４年度 スポーツに係る予算についてから、予算の全体像をまず御説明させていただいて、その後、議題（３）のほうで説明をさせていただきたいと思っております。

資料４番を御覧ください。

本件は、令和４年第１回小金井市議会定例会において御議決いただいたものになります。

初めに、歳入になります。

スポーツ振興担当が所掌する歳入につきましては、１，６２５万２，０００円、前年から１，５９８万４，０００円の減となっております。

減となった理由は、オリンピック・パラリンピック関係の補助金収入がなくなったものによるものでございます。

続きまして、歳出でございます。

歳出につきましては、計４億３，７１３万円、前年から３億２，８２０万４，０００円の減となっております。

大幅な減の主な理由は、スポーツ教室が減となったこと、教育委員会事務局職員が減となったこと、また、今年度の総合体育館大規模改修工事と昨年度の栗山公園健康運動センター大規模改修工事の差額によるものでございます。こちらの工事費の差額が、一番大きいものとなっております。

令和４年度の主な事業についても、併せて御説明をさせていただきます。

初めに、ポールウォーキング教室運営委託料です。４６万６，０００円になります。

こちらは、スポーツ教室・各種大会に要する経費の新規事業でございます。コロナ禍でスポーツをする機会が減少しているため、屋外で、誰もが参加しやすいポールウォーキング教室を実施し、市民の健康増進を図るものでございます。

次に、スポーツ推進審議会に要する経費２５３万５，０００円です。

こちらは、当審議会に係る経費で、スポーツ推進計画策定に係る令和3年度に設定しました債務負担行為解消分も含まれている金額になります。

次に、総合体育館大規模改修工事第3期です。1億2,556万5,000円になります。

こちらは分電盤、放送機器、I T V機器、換気設備、小体育館、幼児体育室天井等の改修が行われます。

最後に、負担金・補助金1,451万7,000円、前年から5,000円の増となっております。

負担金・補助金の内訳につきましては、1つ資料をお戻りいただき、資料3を御覧ください。令和4年度スポーツ関係団体への補助金交付額になります。あわせて、議題の(3)スポーツ団体に対する補助金交付についてを御説明いたします。

スポーツ団体に対する補助金の交付につきましては、スポーツ基本法第35条において、地方公共団体が社会教育関係団体であるスポーツ団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、教育委員会がスポーツ推進審議会等その他の合議制の機関の意見を聴かなければならないとされているため、本議題とさせていただきます。

小金井市の補助金交付スポーツ関係団体は2団体ございます。1つが公益財団法人小金井市体育協会で、こちらは34種目の連盟とスポーツ少年団が属している団体となります。もう一つがN P O法人黄金井倶楽部で、こちらは小金井市の総合型地域スポーツクラブになります。

令和4年度の補助金交付額は、昨年並みとなっており、体育協会へ合計1,177万7,780円、昨年から5,352円の増、黄金井倶楽部へは合計273万8,320円、昨年から216円の減となっております。

なお、本金額は、両団体とも年度当初の交付決定予定額となりまして、確定額は、年度終了後に提出されます実績報告に基づき確定がされます。

なお、このほかの予算につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業の延期、中止、施設の臨時休館など予算執行への影響が想定されますので、補正予算等により適切に対応してまいりたいと思います。

説明につきましては、以上となります。

田中会長

ありがとうございました。

今、事務局から、資料3と資料4について御説明がありましたけれども、御意見等がありましたら、挙手をして、お名前を言ってから発言をお願いいたします。何かございますでしょうか。

一応、予算が決まっています、これはもう議会のほうで確定した予算ということでよろしいでしょうか。

中島課長

そうです。令和4年第1回の3月末で終わりました定例会で、御議決いただいたものになります。

田中会長

では、この内容については、ここの皆様の御意見は、極端な話、聞き置くということですよ。内容が変化するという事はないですよ。

中島課長

はい。

田中会長

分かりました。

その上で何か、ちょっとここが多いんじゃないか、少ないんじゃないかとか、御意見がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、予算関係については了承していただいたということにいたします。

それでは続きまして、本日のメインイベントではないんですけれども、(5)第2次スポーツ推進計画の策定についてということで、議題を進めてまいりたいと思います。

それでは、事務局のほうから、このことについて説明をお願いいたします。

津田主任

まず、計画についての審議に先立ちまして、ランドブレイン株式会社様から、スポーツ振興の現況について御説明いただきます。

よろしく申し上げます。

ランドブレイン株式会社 資料5について、まず、説明をさせていただきます。こ

ちらは、この後、アンケートも含めて、スポーツ政策を御議論いただく上での情報提供として受け止めていただければと思います。

こちらでは、国の計画及び東京都のスポーツ関連計画の御紹介をさせていただきます。まず初めに、国の計画として第3期スポーツ基本計画、今年3月に定められたものについて御紹介いたします。

内容をかいつまんだものになっておりますけれども、まず、御紹介させていただきますのは、この基本計画において、スポーツをどう定義づけているかというところでございます。

国のほうでは、スポーツは「する」「みる」「ささえる」という様々な形で、それぞれを「自発的な」参画、こちらを通じて、人々が感じる「楽しさ」、「喜び」に根源を持つものと位置づけております。

国といたしましては、こうした「スポーツの価値」を原点にして大切に、さらに高めて、生涯を通じてスポーツを「好き」でいられる環境を整えることが不可欠というふうに定義をしているというところになっております。

続きまして御説明しますのは、資料1 ページ目の中段でございますけれども、その中で、中長期的にスポーツ政策を、どう基本方針を位置づけているか、さらに、今回、第3期計画として、付け加えられた新たな視点についてというところを御紹介させていただきます。

前期計画、第2期計画におきまして、スポーツ基本計画では4つの方針を掲げておりました。1つ目が、スポーツで「人生」が変わる、2つ目が、スポーツで「社会」を変える、3点目、スポーツで「世界」とつながる、最後、4点目が、スポーツで「未来」を創るという4つの方針、こちらにつきましては第3期計画においても踏襲されているということになっておりますが、それぞれの4つの方針に対して、策定後からの変化というものがこのページの下段にあります。こちらもしっかりと捉えていくということが必要というものが示されるとともに、これを踏まえた上でのということで、第3期計画において、新たに3つの視点を加えるとされております。

こちらの視点につきましてが、おめくりいただきまして2ページに記されておりますけれども、新たな視点として、スポーツを「つくる／はぐくむ」という視点、2点目に、スポーツに「あつまり、ともに、」つながっていくという視点、最後に、そうしたところに「誰もがアクセスできる」ようにするという視点ですね。

1つ目の「つくる／はぐくむ」につきましては、具体的には、これまでの手法ですとか考え方というもののだけでなく、新たな関わり方、例えば最近の話ですと、DXの導入になりますけれども、そういった技術を活用しての新しい関わり方をつくるということですか、そうしたものの担い手となる指導者などを育てていくといったものが上げられております。

2点目の「あつまり、ともに、つながる」というところにつきましては、アンケートに対しての意見でもございました、パラリンピック後のパラスポーツへの関心の高まりなどに代表される、スポーツを通じた共生社会の実現ですとか国際交流といったところの視点が新たに加えられたということでございます。

最後に、「誰もがアクセスできる」というところにつきましても、年齢や性別、障害といった差によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、途中で離れないようにする社会の実現、機運の醸成が必要ではないかということが、新たな視点として加えられております。

おめくりいただきまして、4ページでございますけれども、こうした基本方針、視点の下、国としては、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策として、大きく12本の柱を立てております。

本日は、後ほどの議論もございまして、時間の関係上、一つ一つの説明は省略をさせていただきますけれども、今後、議論などされる際に、こちらの考え方を国は持っているんだというところを踏まえていただきながら、御検討いただければと思います。

続きましては、ページを飛ばしまして、次は19ページ、もう一つの都の計画についての御紹介をさせていただきます。

都の計画といたしましては、東京都スポーツ推進総合計画、平成30年3月策定について、紹介をさせていただきます。

都の計画においては、策定時点で、スポーツを取り巻く環境の変化というものを8つ掲げておまして、1つ目の「人口構成の変化」から、最後8つ目の「社会状況の変化」、これらの8点の変化を踏まえて、理念といたしましては、「スポーツの力で東京の未来を創る」というものと、スポーツを通じて大きく3つ、「健康寿命の達成」「共生社会の実現」「地域・経済の活性化」という政策目標を掲げて、スポーツ政策を推進しております。

おめくりいただきまして、20ページでございますが、こちらの都の計画においても、スポーツの範囲というものが示されております。

す。

東京都の計画においては、ルールに基づいて勝敗や記録を競うものだけでなく、余暇時間や仕事時間等を問わず健康を目的に行われる身体活動、さらには遊びや楽しみを目的とした相応のエネルギー消費を伴う身体活動といったところを、割と幅広く捉えるという定義をしているということでございます。

東京都の計画のほうでも、20ページ、21ページでございますように、目標達成に向けた主な取組として、スポーツを身近でできる場の確保、スポーツを支える人材の育成、性別に関わらないスポーツ振興、誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備、スポーツクラスターを核とした地域の活性化、官民連携によるスポーツ気運の醸成といったところを主な取組として取り組んでいるという状況でございます。

大変駆け足の説明で恐縮ですけれども、私のほうからの、国及び都によるスポーツ関連計画の現況の御紹介については以上でございます。

津田主任

続きまして、今の説明を踏まえて、第2次スポーツ推進計画の策定について説明いたします。本日は、市民アンケート調査の内容を確定したいと考えております。

まず、前回のおさらいなんですけれども、前回お配りしましたピンの計画、こちらが現行の小金井市スポーツ推進計画となります。こちらは、スポーツ基本法に基づき、国のスポーツ基本計画や東京都のスポーツ振興計画等を参考に、平成28年度に策定されました。

当初設定した計画年度は、平成28年度から令和2年度まででしたが、東京2020大会の延期に伴い、2年間延伸をしまして、現行計画を令和4年度までの計画と位置づけております。

来年4月以降の新たな第2次小金井市スポーツ推進計画、こちらが今、皆さんに審議していただく計画ですが、令和5年度から令和12年度の8年間の計画となります。その新計画を策定する資料とするため、市民アンケートを実施します。

こちら、今は、前回も説明した内容なんですけれども、これから本題に入るんですが、前回お示ししました市民アンケートについて、委員の皆様からたくさんの御意見をいただきました。ありがとうございました。

本日は、いただいた御意見を反映して追加、変更した資料をお配りしております。本日の審議終了後、アンケートの実施に入っていきます。

今回、アンケートを変更した内容について説明いたします。

前回、現行のスポーツ推進計画策定前のアンケートでは、対象者が2,000人というお話をしましたが、今回は1,000人で予定していると説明したところでした。こちらについて、事務局で再度検討し、小金井市で実施しているほかのアンケート調査等の状況を見て、2,000人に増やしたいと考えております。

また、対象者の年齢18歳以上を予定していましたが、野川委員から、5年後、10年後を見据えてということからという意見をいただきましたので、年齢を引き下げ、16歳以上とすることとします。

また、服部委員から御質問いただいていたんですが、対象者をどういった基準で選定されるのかということですが、市の全人口の住民の割合を縮小した形で、無作為抽出する予定です。

御存じかもしれないんですけども、例えば、本町に在住している30代の男性が全人口のうち1%だったとしたら、2,000人のうち1%なので20人、その属性の方を20人抽出するということになります。

また、前回、ウェブ調査の御提案や子供たちへの調査の御提案をいただいていた。こちらについて、当初予定しておりました郵送でのアンケートに加えて、ウェブでの調査と子供たちへの調査を実施する予定です。

子供向けアンケートのやり方なんですけれども、学校にチラシをお配りし、各自がインターネットから回答してもらう方法を考えています。最終的には、郵送での大人向けアンケートにウェブでの大人向けアンケート、ウェブでの子供向けアンケート、全部で3つをやるということで提案したいと思います。

ただ、ウェブの調査については、同一人物が複数回、回答できることや、市民以外の方でも回答できるということから、郵送アンケートをメインとして、ウェブは附属版として取り扱うこととしたいと思っております。

では、詳細な御説明を、ランドブレインさんからお願いします。

ランドブレイン株式会社 それでは、資料6及び、主には資料7を使って、変更点について細かく御報告したいと思えます。2つを眺めて、御覧いただければと思えます。主に問いの順番で、御意見を整理して思えます。

まず初めに、問2の選択肢について、前回の資料では、「70歳以上」が一番最後の選択肢となっておりましたが、「70代」と「80歳以上」に区分してはという意見がございましたので、こちらは御意見を踏まえ、選択肢を区分して思えます。

続きまして、問4の選択肢の1つ目、「勤め人」のところですが、この定義について、パートタイム・アルバイトが含まれるのかという御意見がございましたので、含むという定義でございましたので、はっきり分かるように選択肢の記述を加筆して思えます。

続きまして、問5の選択肢の中に、前回では、「答えたくない」という選択肢を設けておりましたが、これは不要でよいのではないのかという御意見がございました。こちらも御意見のとおり、選択肢を整理して思えます。

続きまして、問6から問8のところですが、こちらは設問の構成は変えておりませんが、選択肢の並べ方について、順位尺度に並べ替えるべきではないのかという御意見を踏まえ、それに対応する整理を行って思えます。

続きまして、問9でございます。こちらについては、パラスポーツに関する設問を増やしてはという御意見がございました。こちらについては対応といたしまして、問9の選択肢ですと、主に設問肢の27から30になりますけれども、こういった形で、パラスポーツに関する選択肢を区分するという形で充実をさせて思えます。

また、少し飛びますけれども、問19のところに、パラスポーツに限らず、「今後新たに始めたい・体験したい運動・スポーツ」を伺う設問を追加いたしました。こちらで、やってみたいパラスポーツがあれば答えられるようになったかなというふうに思えます。

続きまして、同じく問9の選択肢ですが、ストリート系のスポーツですとかeスポーツを加えるべきだという御意見もございました。こちらについては、ストリート系につきましては各種、選択肢の中にばらばらに今、存在しているという形の整理となっているかなと思っております。まとめるという考えもあるんですけれども、前回計画でのアンケート調査結果と比較がしやすいように、

基本的には、前回計画と同じ選択肢のままで行えればと考えております。

e スポーツにつきましては今、国のほうでも、明確にスポーツと言えるかどうかというところが判断されていないかと認識しておりますので、現時点では選択肢に加えておりません。

続きまして、問11に関する御意見でございます。前回は、運動・スポーツの実施形式として、選択肢の中に、「黄金井倶楽部に所属」というところがあったんですけれども、もう一つの団体である体育協会についての選択肢がありませんでしたので、体育協会に関する選択肢というものも、問11に追加したところでございます。

続きまして、問13についても、選択肢の並べ方に関する御指摘をいただきましたので、そのとおりに選択肢の並べ方を整理しております。

続きまして、問17でございます。こちらについて、あなたが運動・スポーツをする理由・動機づけに関する設問ですが、前回の調査票では、選択肢を11設けていたんですけれども、もう少し大別して区分すべきではないかという御指摘をいただきましたので、内容が似通っているものは束ねまして、選択肢を4に区分しております。さらにその後、事務局内部の検討の結果として、選択肢の5つ目に「トップチーム・アスリートの活躍からの触発」というものを加えております。

続いて、問18です。こちらの設問については、前回は全ての方が回答する設問としておりましたが、内容が、運動・スポーツをしない／できない理由という内容ですので、こちらは現状、スポーツを実施していない回答者に限定すべきではないかという内容でした。こちらも御指摘のとおり、設問文の前段に、「この1年間に運動・スポーツを実施していない方」と付け加える形で修正しております。

続きまして、問20に関連する御意見ですけれども、新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツ習慣に与えた影響という設問については充実すべきではという御意見がございました。これを踏まえ、新たに、前回まではスポーツの実施に対する影響を聴く内容だったんですけれども、これに加えて、スポーツを観る、スポーツを支える意欲についての変化を把握する設問を加えております。

さらに、問21として、コロナ禍においても運動・スポーツを実

施したいと思う理由・動機づけに、何ができるのかというものを伺う設問を追加しております。

続きまして、直接の設問ではないんですけれども、大項目の5、「小金井市のスポーツ関連事業の取組みについて」という部分について、前回までは、「小金井市のスポーツ振興の取組み」という記載をしていたんですけれども、「スポーツ振興の取組み」は、概念的に広い意味合いのある言葉になりますので、もう少し、使うのであれば定義を明確にすべきではないかという御意見がございました。

これを受けて、後ほどの設問の内容を踏まえて、今回、修正案では、「小金井市のスポーツ関連事業の取組み」と修正をしております。

これらの問22から27に対しての意味合いについての御意見で、今後、同じ内容を継続する考えがあるのかということにつきましても、当然、継続を考えつつも、今回のアンケート結果を踏まえ、改善方策も検討したいと考えているところです。

続きまして、こちらは問29に関係するところなんですけれども、佐藤委員とも共通するお話かと思いますが、パラスポーツ、障害者スポーツへの関心・参加行動といった高まりをしっかりと把握すべきではないかという御意見だったかと受け止めましたので、問30というものを前回から新たに追加して、パラリンピック開催後のまち及び人々の意識の変化を確認する設問というものを追加しております。

最後に、問31について、前回、提示していた選択肢が、市として取り組める、あるいは取り組みたい回答肢であるかというものを確認する御意見がございました。

この御指摘を踏まえて、少し選択肢の内容は整理をし直しております。こちらについても、取り組める、取り組みたい回答肢ではなく、現時点では、考えられる選択肢をある程度幅広く、網羅的に示しているという位置づけにしております。

今回の郵送アンケートに関する修正内容といたしましては、以上でございます。

続きまして、先ほど冒頭、市のほうから御説明がありましたが、御意見を踏まえて、新たに実施を検討しておりますウェブでのアンケート、資料8、小・中学生向けのウェブアンケート、資料9についても御説明をいたします。

まず、資料8、ウェブでの大人向けアンケート、16歳以上向けアンケートにつきましては、郵送アンケートの設問を使用することを検討しております。

ただ、かなり選択肢の多い調査でございますので、ウェブアンケートにつきましては、今回の調査の重要度を踏まえて、設問を絞り込もうと考えておりました、具体的には、郵送アンケートにおける問1から問21までが、回答者の運動実態及びその実態に及ぼしている要因を把握したいという思いで設けている設問なんですけれども、ここまですべてを伺うウェブ調査にしようと考えております。

資料上では、ウェブページを印刷した関係で見切れている部分もあるんですけれども、考えといたしましては、郵送アンケートの問1から問21までを伺う設問としております。

続きまして、資料9について御説明いたします。

こちらは、小・中学生向けのアンケートとなりますので、郵送アンケートとは設問の内容を変化させております。

最初に、回答者の属性を伺う問1から問3までの設問があった後に、問4として、新型コロナウイルス感染症蔓延前の実施日数を伺う設問、問5に、コロナ禍における近年のスポーツ実施日数を、それぞれ伺う設問をつくっております。

これによって、コロナ禍におけるお子さんの運動実施日数が、減っているのではないかという懸念というか、お考えがあったという内容だったかと思っておりますので、そちらが把握できるよう、これらの設問を設けております。

さらに、問6については、減少した理由を伺う設問、さらに、資料上、見切れておりますけれども、もう一つ、運動日数の減少によりお子様にどのような変化があったかを伺う設問ということで、スクリーンタイムが増えたですとか、いらいらすることが多くなった、食事の量が減ったみたいなものを伺う設問を設けております。

考えといたしましては、こうしたものを把握することで、今、お子さんの運動状況などが減っている状況、もしくはお子さんの心身に何か悪影響などが見られるようであれば、ウィズコロナ下においても、やはり運動機会を充実させていくような施策を打つべきではないかといったところを検討する参考にしたいと考えております。

アンケートに関する説明については、以上でございます。

田中会長 では、今の御説明、なかなか内容がいっぱい追いつかないこともあると思いますけれども、御質問、御意見等ありましたら、挙手をして、お名前を言ってから発言をお願いいたします。

野川委員 どうもお疲れさまでございます。私のほうでいっぱい質問したので、いろいろやっていただきまして、ありがとうございます。
 こちらの意識調査に関しては、回答すると何分ぐらいかかるものですか。

田中会長 私、やってみました。大体15分ぐらいかかった。

野川委員 15分かかる。ちょっと長い。

田中会長 ちょっと長いんですけど、はい。

野川委員 私のほうで、問19、それから、似たような質問項目のところになると思うんですけど、問9と19は同じものが入っていると思うんですけど、ボッチャが漏れているというのは、何か意味があるんですか。

津田主任 選択肢の26のニュースポーツの中に含めています。

野川委員 障害者スポーツとは捉えていないということなんですね。

ランドブレイン株式会社 障害者スポーツと捉えることも、枠組みとしてはあり得ると思いますが、こちらは現時点での整理といたしましては、前回の計画における選択肢の整理にそろえているという状況でございます。

野川委員 こういうふうに括弧づけになってくると見落とす可能性があるから、その辺のところは気をつけられたほうがいいのではないですかという点がございます。

 あと、もう1点の質問なんですけれども、6ページにあります問20のところ、「する」、「観る」、「支える」というふうにしていただいている、大変いいと思うんですけど、2番目の「観る」という

ふうになったとき、この漢字だけでいいんでしょうかということがございますけど、いかがでしょうか。

ランドブレイン株式会社 2つの御意見について、まず、ランドブレインから御回答いたしますと、問9及び問19の選択肢のつくり方につきましては、先ほども申し上げましたが、前回計画の選択肢とそろえていくというのが一番の考え方に今、しております。

その結果として、今いただいたように、まとめ方がこれでいいのかですとか、まとめた結果、分かりにくくなるのではないかという御意見をいただいているのかと思います。

今回、アンケートをするに当たって、やはり前回計画からの比較、各種目自体への頻度がどれぐらい変化したかというものも見たいという考えがございますので、今は前回計画を基本とした選択肢のつくり方をしておりますけれども、もう少し、分かりやすさなどから選択肢を細分化するなり、分かりやすくしたほうがよいかどうかは、皆様からも意見をいただき、検討したいと思います。

もう1点の問20、「運動・スポーツを観る意欲」に対する言葉につきましては、観戦する以外にも、もう一つ、近所の方がやっているのを見かけるといふか、そういう多様な「みる」があるのではないかという御意見だったかと思えます。

そうしたところも、基本的には今、スポーツ観戦を想定しておりますので、私としては、観戦の観、「観る」でいかがかと思えますが、ほかの「みる」という視点も必要であるかどうかを、同じく、また本日、御意見をいただきたいと思います。

野川委員

スポーツのマネジメントとか、あるいは社会学的な言い方からしますと、「みる」というのは、テレビで「観る」という視聴のほうと、それから、実際に会場に行って、「観に」行ってお金を払うという経済活動のほうと、それからあとは、運動会とかそういうところに行って、あるいは、箱根駅伝で走っているところを「見て」応援するという、3つあるということになっているんですね。

それで、経済活動云々というようなことが、東京都と、それから、国のほうの政策であるということで、それを意識されて、観戦に行くというふうな意味なのか、いや、テレビで観ているのも全部入っちゃうんだよということであれば、漢字3つぐらい、ずっとそろえ

ていてもいいかもしれません。

田中会長 この「観る」という漢字を平仮名にして、「みる」というふうにすれば、多様性を生じて、テレビで視るのも、味スタへ行って観るのも含まれるんじゃないか。

取りあえず、スポーツをいろんな意味で観戦する、みるということに対して、態度がどういうふうに変化したかというものを知ることが大事だと思うので、どうでしょうかね、平仮名にしてしまうという手もあろうかと思いますが。

野川委員 先ほど、前回との比較のためということで、新しいスポーツとかeスポーツは今回、できるだけしないというふうになってくると、スポーツもどんどん進化していきますから、新しいものがどんどん出てきたときに、前回とか一番最初の調査結果と比べなくてはいけないという理由だけでは多分、理由にならないのではないかと思いますので、その辺、もう一回、再考していただければと思います。

これはどうしてかといいますと、今度の第3期のスポーツ基本計画のところでも大分議論がされていますし、経済的云々というふうなモチベーションから入ってくると、eスポーツというのは避けては通れない時代になっているというふうに思いますので、その辺のところをもう一回、事務局のほうと御検討いただきたいと思います。

津田主任 eスポーツについて、国の計画でも、定義が定められていないということから、省いていたところなんですけど、野川委員から、フィジカルeスポーツというお話も御提案いただいていたので、フィジカルeスポーツをこの選択肢の中に入れる方向で考えたいと思います。

服部委員 それは、例えばどういうものなんでしょうか。

津田主任 VRによる仮想空間で筋力を鍛えるとか、景色を見ながら走ったりするなどがあります。

野川委員 あとは、例えば、固定自転車ではなくて、実際、そのままが一つと固定しながら自転車をこいで、画面があって、例えばツール・ド・

フランスで参加しているというような形で、海外からも一緒に参加できるような形で、すごい汗びしょびしょになるようなものが今、ありまして、もう一つは、かめはめ波という、ありますよね。波動というやつで、このところにVRをつけて遊ぶんですけども、めためた動くんですよね。

そういうのが多分、フィジカルeスポーツで、場所を取らないし、お金もあまりかからなくて、いろいろできる、そういう時代になりつつあるということです。

田中会長 確かに、年寄りあまり接していないので、あれなんですけれども、若い人はそういうものをやっていると思いますし、そういう項目を立てていただければ、分かっている人はそこに丸をするでしょうし、分からない人はやっていないということなので、それによろしいかなど。

 ニュースポーツの中に、先ほど野川先生がおっしゃいまして、ボッチャが入っているというのも何か、確かに奇異な感じもしないではないんですけど、これを1つ出しちゃったほうがいいんじゃないですか。

野川委員 と思うんですけど。

田中会長 別に、ニュースポーツというより、下のほうにゴールボールとか、ブラインドサッカーとか、シッティングバレーボールとか出ているのに、何で上にボッチャがこうなっているのかというのは、確かにあれなので、ボッチャもこういうふうにならなければ、ボッチャだって結構、知名度もあるし、やっている人も多いのかもしれないので、項目を立ててしまえばよろしいかと思います。御検討をお願いします。

津田主任 ボッチャの選択肢を個別で1つ立てるようにいたします。

長谷川委員 いろいろと取りまとめていただいて、ありがとうございます。
 幾つか教えてほしいんですけど、まず、調査票を送るに当たって、アンケートをする側の人に対して、調査の目的みたいなものは、ランページを挟んだりして、伝わるのでしょうか。

ランドブレイン株式会社 ランドブレインです。

本日お示ししている資料は、調査票となっておりますので、まさにそのものの目的ですとか、当然、回答に当たっての御案内といったところを記す必要があるかと思っております。

そうしたものについては、別紙の案内文とかそういったところを作る予定がございますので、今いただいたお話なども、案内文の中に記すことを想定していると。

長谷川委員

分かりました。

ちょっと目的がこの場で見えなかったので、アンケートの妥当性がかれなかったというか、どういうモチベーションでアンケートに答えられるんだろう、何を期待値として持てるんだろうというところがちょっと見えなかったので、このアンケートで十分なのかどうなのかなというところを、ちょっとはてなな状況で見てしまったところがありました。

アンケートする立場に立ってみると、私がこの場にいるのも、小金井市のスポーツ環境に、もうちょっと充実化を図りたいというところから参加させていただいているところもあるので、やっぱりそこに期待を持ちたいんですね。

そういう期待からすると、例えば、小金井市のスポーツ事業の取組について、6ページ、7ページ目の辺りで、上水公園を利用してみたいですかという質問に対して、すごく悩みながら、丸をするかな、どうかなという気持ちでいます。

なぜなら、上水公園はあまりピッチの状態もよくなって、私もサッカー協会にいたので、今年3回、救急車を呼んでいるんですね。それぐらい、けが人が出やすい状況になっているので、すごく残念ながら、「利用しないと思う」に丸をつけつつ、では、何で利用したくないかという理由を書きたいと思う。

ほかの市に行くと充実した設備があるので、実際、私もサッカー協会の立場で、すごく今、苦勞しているのは、本当にほかの市に人が流れていっちゃっているんですね。充実した環境があるところに人がどんどん出ていっちゃっていて、小金井市の仲間でスポーツがしづらくなっているというのが、私が一番今、悩んでいるところです。

だからこそ、ここの施設の充実というところに一番、この活動に期待値を持っているし、だからこそ、書く側からすると、何でこの施設を利用したことがないかというところに、理由を添えて書きたいなと思いましたし、なので、それがどうなんでしょうかね。

9 ページ目の期待や要望のところで集約されているということであれば、そうなのかもしれないんですけども、まず、施設としてもそんなに多くはないと思っていて、これしか施設がないものを、知っている、知っていなかっただけでアンケートをしてしまうことで、果たして本当にいいのかなというふうに感じたのが、正直な思いでした。

すみません、いろいろつらつらとしゃべってしまいましたけれども、あと、アンケートに答えた側からして、アンケートの集計結果とか、アンケートをいただいたものに対して、こういう取組とかこういう改善をしていきますみたいところは、市民はどこかで見られるんでしょうか。その辺りはお伺いしたいなと思いました。

津田主任

アンケートについて、まず、集計結果については、ホームページ等で結果を発表して、その後すぐに、意見をいただいたから施策に反映するのではなく、アンケートを受けて、こちらの審議会で審議をして、最終的に計画ができた後に、その中で何か反映することがあれば、推進するということもあるという流れです。

長谷川委員

はい、分かりました。

田中会長

今の御意見はすごく大切だと思うんですね。つまり、少ない小金井市の体育・スポーツ施設は、極端に言うと、これしかないですよと今、言っていて、これについて、皆さん何か御意見があると思うんですね。

大きくしろとはなかなか言えないけど、その内容を、あるいは、施設の公益を何かしてほしいとかそういうのはあるかもしれないから、そういう意見をどこか書ける、全部の、どうですかというのではなくて、この施設のところで何か、利用しないと思う理由について、下に一段、書いてもらうとか、何か御意見があったら書いてもらうとかというのを、自由に書いてもらうような欄を作ったら、その声が一番大きいんじゃないかなと。その声はすごく大切だと思

うので、そういうのは吸い上げていく必要があると思います。

津田主任 問23で、スポーツ施設を利用したことはありますか。また、今後利用してみたいですかという設問があるんですけど、その設問に関連して意見を問う欄を追加することを検討したいと思います。

野川委員 今回のタイトルが、スポーツに対する意識調査になっていて、長谷川さんのおっしゃったのは、スポーツニーズのことを言いたいんですね。

それで、会長もスポーツニーズのことをもうちょっと入れたらどうかということで、スポーツ意識と言いながら、実際は行動を聞いているわけだから、あまり意識じゃない調査なんですね、実はこれ。

それであれば、やっぱり政策に反映を云々というのであれば、スポーツニーズの調査というふうな言い方にして、お考えになるというのも一つだと思うんですけど、例えば私がやった、東京都大田区のスポーツニーズの調査のときは、総合型地域スポーツクラブが、大田区は3つから5つぐらいあるんですよ。

ところが、総合型地域スポーツクラブに入らない人が多過ぎるので、どういうことだ、どういうニーズがあるのか調べろというふうに言われて、総合型地域スポーツクラブを知っていますかというふうな質問から、どういうふうな条件だったら入ってみたいと思いますかというふうな質問項目なんですね。

それと同じように、体育協会には何を望みますか、何をしてほしいですかという質問にしたんですよ。そうすると、具体的なアイデアが出てくるんですね。

それで、オープンスペースにして何か書けと言っても、ほとんどみんな書いてくれないというのが、アンケート調査でも分かっていますから、言いたい人はほんの、多分3%もないだろう。あとの人は、ただ丸だけつけてぱっと出すだけだと思うんですね。

その辺のところもお考えになって、意識だけでいくのか、スポーツニーズをもうちょっと入れて具体的な質問にするかということですよ、文言で。ちょっとそんな感じがいたします。

長谷川委員 すごく今の御意見に賛同するところで、最初の項目は意識調査として入っているなと思いました。運動不足かどうかとか、そうやっ

て入ると、何か運動不足を解消されるような取組を、自分自身に与えてもらえる機会が期待されるんですけども、その後で結局、施設の利用とかというふうに入っていくので、なので、最初に目的は何ですかと聞いたのはそこで、その人個人のスポーツに対する意識を変えることが目的なのか、小金井のスポーツ環境を充実化させることを目的として取るアンケートなのか、そこがちょっと分からなかったんですけども、恐らく、ビフォー・アフターを取りたいというか、前回と比べて少しよくなりましたというところを成果として見るために、こういう項目が入っているのかなと察していたんですけども、だからこそ目的が大事かなと思いましたし、アンケートの目的に、ぶれない内容にしていったほうがいいかなというのと思いました。

田中会長 中川委員、体育協会に関して、ちらっと出ましたけれども、何か御意見ありますか。

中川委員 今、アンケート、それから、その背景ということなので、自分も今さらながらなんですけど、先ほど野川先生のほうから、経済活動とか、あるいはフィジカルということで、ルームランナーじゃないんですけど、スポーツクラブでやっているような状況ということになると、自分自身、団体競技でずっとこの年まで来ていて、自分が思うところは健康な体と心という感じで、それを、小さいときから親を見てとか、あるいは、世の中に出たときのフォーメーション的な動き、そういうものを何かやっていけば、今、ちょっと余談になってしまいますけど、海外で起きているような問題というものも何か、相手を思うというところでいくというのが自分自身、やっていけたらなということで、ジュニアの育成から一般のところということで来ています。

ですから、先ほど御紹介いただいたように、34団体で、やはり現役のユニフォームを着た姿を子供たちが見ると、震えるような状態を見せてあげたい。そうすると、プレーだとか何かでその競技が好きになっていく。そうしたらまた、その団体でもって動きが取れていくと、自分が日頃の生活に戻ったときに、そういうものが反映されていくというところは、自分自身、スポーツのいいところだというふうに、本を読んで勉強するのがありますけれど、体で、運動

で、プレーで覚えていくというところを、そうすると、このアンケートからすると、どういうふうに結びつけていくのかなというのが、ちょっと自分自身、迷っている部分はあります。

ですから、先日も、上水公園へ行っても、周りに緑がいっぱいあったんですけど、地域からの枯れ葉の問題だとか何かで伐採しているとなると、木も1メートルぐらいのところまで全部伐採されたり、剪定されているのが見えると、これは一つの問題としては、自然との調和ということで、自分たちがプレーする中ではどうなんだろうとか、やるだけではなくて、それも日頃においては、やらないときはそういうことで地域社会とつながるといようなことも、指導の中には入れていかなきゃいけないかなといようなことも考えています。

ですから、そういう意味で、アンケートとつなげるところとい何かポイントが、そういうところが何かにじみ出るところを盛り込んでいただけたらありがたいかなと。自分自身、やはり残された中では、若い人たちにそういうところを分かって、理解して、指導していく、プレーをしていくといことでいきたいと思っているんですよね。

何か取り留めのない意見になっているかもしれませんが、以上の内容になります。

田中会長

6ページ、5番の「小金井市のスポーツ関連事業の取組みについて」という大きな設問があつて、その中で、施設の問題とか、学校開放とか出てきていますけれども、スポーツ事業について、出てくるじゃないですか。

この中で、皆さん知らないのは、先ほど予算のところに出てきましたけど、小金井市が事業の予算を出しているのは2つあるということがありますよね。そのことについて、やはり関連事業の取組だから、小金井市の体育協会というものを知っているか、知っていないか、黄金井倶楽部の存在というものについて知っているか、知っていないか、こういうものについて知っていても、何か期待するものとか、そういう設問といのものも必要かなといような気がしますけれどもね。

その中で、いろんな行事をしているんですよね。スポーツフェスティバルとか、野川駅伝大会とか、ボッチャ教室はどっちがやって

いるか、ちょっと分からないんですけど。こういうふうにも多分、いろいろな行事をそれぞれがやっているんですけど、例えば小金井市がそういうふうにして補助金を出して、こういう事業をやっています。それに対して、やっぱり小金井市のお金を使っているから、小金井市民が知る必要はあるので、知る義務はありますよね。

そういうものについて、あるいはさっき言ったように、体育協会にもっとこんなことをやってもらいたいとか、黄金井倶楽部にこういうものを期待しているんだというものがあれば、そこを、「小金井市のスポーツ関連事業の取組みについて」というところで説明を設けたりしたら、より充実していくんじゃないかなと思うんですね。

そうすることによって、意識調査というよりは、もっと明確になってきて、意識改革とその関わり方と、実際に小金井市のいろいろなものに対する、スポーツ施設や、ニーズもそうですけど、そういうものに対して、より具体的に自分が何か書いたりすることができるんじゃないかなと。確かに自分でやっても、何かちょっとぼんやりしているんですよ。

中川委員

今、田中会長のほうから言われて、体協ではといったときには、ここ2年はコロナの問題でありましたけれど、新春の集いということで、年間を通して上部団体、東京都、あるいは関東、日本全体ということでは、各競技大会でそれなりの成績を収めた方たちについては、新春の集いで表彰、それから、「体協だより」というようなことで、その旨を皆さんにお知らせということも、「体協だより」も今、年2回が1回になっていますので、そういうことについては順次、今こういうことをやって、この競技ではこういうことになっているというようなPRという活動も今後はやりたいというところは、いろいろ理事会だとか何かで意見として出てきております。

ですから、そういう中では、各競技での成績等も一つのPRになって、小金井ではこうなっているぞというようなところも、私たちが推し進めていかなければいけない内容だと思いますけれども、今後、より充実した形で、心に留めておきたいと思います。

野川委員

田中会長のほうから、体協あるいは黄金井倶楽部、あるいは、スポーツ推進委員のことも多分、出てくると思うんですけど、大田区で調査したときに、知っているという人は10%もいないんですよ。

みんな知らない。何しているか分からないし、どこにあるかも知らないというのが現実じゃないだろうかと。

どうして埋もれちゃったのかという話はちょっと置いておきますけど、たまたま私も、大田区のほうの体協の理事長をやっていたので、これはやっぱり大変だよなというふうな話をして、体協は何をすべきことかというような話合いをするんですけど、残念ながら、個別の競技のことだけになってしまうんですね。

それで、市民とか区民の健康づくりのどういうプログラムをやらなくてはいけないかというような話とか、あるいは子供のプログラムや何かはどうしたらいいんだろうかというのを、体協として話し合うというのはなかなか難しかったというのを経験しております。

そういうところからすると、実際に聞いてみて、どういう改善点が必要なのかというのは、大変かもしれませんが、やっぱり税金をもらっているような立場からすると、それは説明責任として出していかななくてはいけないので、そういうところも必要かもしれません。

あと、これとは違って、子供のほうの調査なんですけど、ちょっとこれは僕、がっかりしちゃったんですよ、実は見て。ほとんど、これでは何も分からないんじゃないかと。

せっかくこちらのほうにすごくいい質問項目があるので、例えば子供だったら、1年間どのようなことをしたかという問9、それから、どこでやりましたかというところの問10、それから、ずっと行きまして問20、あと、問27、29、30、31、この辺の質問はとてもいい質問項目なので、現状とこれからやりたいことというのが、これだったら分かるのではないかと。

せっかくこんないいものがあるので、ちょっとその辺をお考えになったらいかがかなというふうに思います。

津田主任

中川委員のお話で、体育協会、黄金井倶楽部、スポーツ推進委員の認知度等の設問の追加を検討します。

野川委員からの子供の調査のところなんですが、インターネットの調査にすると、どうしても長くなってしまいますので、答えやすさの面から短く凝縮したのですが、問9、10、20、27、29、30の追加を検討したいと思います。

野川委員 全部じゃなくて結構なので、その中で必要だと思われるのは、やっぱり3つぐらいは入れられたらいいんじゃないかと思います。

津田主任 ありがとうございます。

田中会長 今、子供のほうに話が行きましたけど、「お子様の性別をご回答ください」ということは、親が回答するんですね、これ。

津田主任 そうです。

田中会長 子供じゃない。子供に聞きながらやるということ。

津田主任 多分、中学生位だったら自分で答えられると思うんですけど、小学校低学年だと、自分で答えるのは難しいと思われ、保護者の方にお願ひすることになるのかなというところで、全員に配りたいことから、保護者が回答するような方法とさせていただいております。

檀原委員 野川委員や田中委員の話に出たんですけれども、子供の調査を見ていて、同じようなことをずっと思っていました。

前回の会議のときに、一斉で学校で取るというのはかなり負担も大きいし、難しいだろうという話をして、それを受けてこのような形で、自分の意思で連絡を取るという方向になったのはありがたかったなと思うんですが、内容を見させていただいて、これは結果が明らかに分かっているような質問ばかりだなと思って、やる必要が私はないなと、正直、思っていました。

コロナ禍で、結果が明らかに、こういう傾向になるというのが分かったような、最後の質問も、ほとんどつく人が多いかな。つく、つかないはあると思うんですが、何のために取るのかなというのが、ちょっと疑問に思ったところで、1つはそれが質問です。

それとさっきの、このスポーツ推進計画が令和5年から12年までの適用になるというところを考えると、今の子供たちが、まさに推進計画の中で、地域でそれに乗っていく世代だと思うんですね。そのときに、どんなスポーツをどういうふうにしてやっていきたいのかということ、ストレートに聞いていいのかなと思うんですね。

私自身の経験を申しますと、私は、そこがいいとか悪いではない

んですが、たまたま隣の武蔵野市で生まれ育ったんですね。そこには結構、地域にコミュニティセンターという、しっかりした体育館のある施設があって、小学生でも自由に行って、名前を書けば、卓球やバドミントンとか、体育館が空いていればバスケットボールとか、自由にできるんですね。本当に自由にできるものですから、行きたいときに行って、やればできる。

そういうフリーにできる場所が、子供たちにとってはとても大事なのかな。つまり、何かの団体に所属してやるというのは当然、あるわけですね、社会体育の中で。だけれども、子供たちのうちは、興味を持ったものにすぐ取り組める。

ニュースポーツの中には、簡単な予算でもできるスポーツもありますし、ただ、そういう箱物を造るというのは簡単には、予算もかかりますから、できないと思うんですが、何かそういった、これだけの計画を立てるのであれば、そういう方向性なんかも出していたり、ここに来たらこのスポーツだけじゃなくて、こんな取組もできるよ。学校開放はそれに近いものもあるんですが、学校開放は種目が決まっていますね、何々をやるという。

それに近いのが、学校で行われている放課後子ども教室の校庭で遊んだりするやつ、あれだと校庭では何をしてもいいという形で、自由に遊べる環境があって、そこである程度の道具があってできる。体育館なんかもそのような形で使えると、子供たちの興味・関心の幅が一気に広がると思うんですね。

高学年の子供たちぐらいだったら、この質問には自分たちでも答えられますし、「お子様」とここに書いてあると、子供だけで答えてはいけないのかなと、ちょっと誤解を生む点もあるかもしれませんが、もし子供たちに参考意見として取るのであれば、その辺りもちょっと改良していただいて、どんなふうにしてスポーツを楽しみたいですかとか、どんなふうにして、どんなスポーツを経験してみたいですかとか、そのような質問もあってもいいのかなと。

子供たちの意見を自然に吸い上げるような取り方があるとありがたいなというふうに思いました。

津田主任

前回の審議の中で、コロナ禍で運動とか、なかなか外遊びができないという状況があるという議論があったところから、この設問を抜粋したところなんですけれども、どんなスポーツがやりたいのか

などが、野川委員からもいただいた提案のところに入っていたので、なるべくそういった今後の意向を問う方向で考えたいと思います。

また、保護者か小中学生自身、どちらでも答えられるような形を検討していきたいと思います。

長谷川委員

ちょっと確認というか、私が段取りというか、今後の進め方をよく分かっていないだけだと思うんですけども、今日、ランドブレインさんから、国とか東京都のスポーツ関連計画の現況というのを御説明いただいて、すごく共感できる内容もいっぱいあってというところだったんですが、この計画に沿った形というか、アラインする形で、それで小金井の計画があって、そのために、その計画を遂行するためにアンケートという流れなのか、それとも、先にアンケートを取って、小金井のスポーツ推進計画を立案するというか、立てていくために進めるものなのか、そこがちょっと私は分かってなくて、なので、この計画を聞いて、例えば、生涯を通じてスポーツを好きでいられる環境を整えることが小金井の中では課題なので、そこに力を入れてやっていくのが小金井の計画です。

だから、そこにフォーカスしたスポーツのアンケート調査なのかなという、その間がなかったので、アンケートが、これが本当にいいのかな、どうなのかなというところで見ってしまったところはあったんですが、そういう進め方のところって、どういう予定なんでしたか。

津田主任

進め方としては、東京都、国の計画を踏まえてという前提はありますが、その中で、どこかにフォーカスした上でアンケートをするというわけではなく、今、都や国の計画を皆さんで共有した上で、総合的なアンケートを取り、その結果を踏まえ、市の計画について審議していくという進め方で考えております。

中島課長

補足です。

このアンケートを基に、これから新しい計画のほうを皆様で御審議いただいて、策定していくような流れになろうかと思います。

その計画を基に、その後は、さらにその実現をどのようにしていくのかというのはその先のお話で、また御協力いただきたいというふうに考えております。

長谷川委員 そういう意味で言うと、小金井の計画を立てるためのアンケート
ということによろしいでしょうか。

津田主任 はい。

長谷川委員 分かりました。

田中会長 そういう意味では、やっぱり実態を、あるいは不満とか、いろい
ろな問題があるよということを書いていただければ、それを計画の
中に取り込むような形で、今後こんなふうにしてやりたいんだとい
うことが、やっぱりスポーツ推進計画の目的ですから、そういう意
味では、いろんなさっきの実態とかニーズというものが必要になっ
てくるんだと思います。

長谷川委員 そういう意味だと、タイトルにやっぱり違和感があるというか…。

田中会長 意識という、意識調査……。

長谷川委員 そうですね。意識調査と言われると、本当に自分で意識改革する
ためのアンケートで、今後、例えばウォーキングに取り組む前に、
今の意識を書いておいて、その後、ウォーキングしたことでこうい
うふうに意識が変わりましたみたいなところに期待値が出ちゃう
んですけれども、なので、どうなんでしょうか、小金井市のスポー
ツ推進を計画するに当たっての調査依頼みたいな感じのほうが、私
はしっくり来ます。

津田主任 タイトルを検討いたします。

長谷川委員 ありがとうございます。

田中会長 ですから、田中ですが、最初の一枚物の内容は物すごく大切で、
これは何のために私のところに送られてきたかというのが分かる
ようにしていただいて、それで、そういうことなんだねというこ
とが分かっていただけだと思うので、最初の一枚物は非常に大切だと

思います。

あと、ウェブでのアンケートというのは、どのようにして周知されるのでしょうか。市民に、ウェブのアンケートというか、調査は。

津田主任 まず、市報、ホームページ、ツイッターと、体育協会さん、黄金井倶楽部さん、スポーツ推進委員さん等に案内を周知しようと思っております。

田中会長 小・中学校には、何か持っていくんですか。

津田主任 小・中学校の全児童・生徒に案内をお配りする予定です。

野川委員 小・中学校の校長会の先生から言われたんですけど、今、保護者の方々はほとんどラインでつながっているの、ラインでぽこっとやると、みんなが全部、その情報を拡散するというようなことで、わざわざ郵送にしなくても、すごく早くていいらしいんですよ。

ですから、多分、檀原先生は御存じだと思うんですけど、保護者のほうに言ってもらわないと、子供たちは分からない可能性があるの、やっぱり小学校、中学校の保護者に対しては多分、ラインとか何かが一番効果的で早いんじゃないかと思うんですけど、いかがですか。

檀原委員 ラインをフォーマルな形で使うということは、ないですよ、ね、学校では。保護者の中で回っているのは多分、あるのかもしれないんですけども、あと、学校のスクールメールというものもあるんですけども、それも学校ごとに使っているシステムが違うので、なかなか難しい面があるかなと。

野川委員 ああ、そうですか。

檀原委員 だとすると、紙にQRコードか何かがあって、これを取って、今後のスポーツの計画の意見を、寄せてくださいというような形で、それで子供が答えるのか、親が答えるのか、ちょっと選択肢があるようなものを作るとよろしいのかなと。

となると、結構使い勝手はいいのかなということでしょうかね。

そう私は思いますけれども。

野川委員 P T Aのほうに働きかけるというのは難しいんですか。

檀原委員 P T Aのほうも多分、同じだと思います。一齐にラインで発信してということは、やっていないと思います、ほとんど。

野川委員 していない……。

木藤委員 スクールメールみたいなものが来て、でも、これを配りましたよというお知らせは、メールで配信できるのであれば、渡さない子もいるので、ぐちゃぐちゃになっている子もいるので、ランドセルの中で。配信していただけるのはいいかなと思います。

もう一つ、いいですか。子供対象のアンケートなんですけど、メインはこちらの紙ベースとお伺いしているんですけど、どのくらい反映されるのか、意見が通るのかなという、サブみたいな感じで、ちょっと感じるんですけども、結構、保護者から、運動場が使えない時期、大分クレームとかあったりしたんです。

みんな同じ、使える場所にみんなが集まって、そこで密になるという、よく分からない、学校の校庭が使えないばかりに、野川の河川敷にみんなが集まっちゃって、朝4時とかにお父さんとかが場所取りに行行って、4時半になったら満杯になっちゃって、次に団体で使いたい方と交渉して、何時まで使いますかと言って、9時まで使いますとか10時まで使います、じゃ、その後、使わせてくださいというのが、小金井だけじゃなくて、三鷹のほうからのチームも来ていたりとか、なかなか校庭が使えないのは、小学生の団体的には厳しくて、また、近隣だと国分寺とか、三鷹とか、吉祥寺とかは全部使っていて、小平さんは多分、使えていなかったみたいなんですけど。

なので結局、小金井のチームが遠征をして多摩のほうに行ったり、東久留米のほうに行ったり、遠征をして、なぜかそこで練習試合をしたりとかというのがあって、ほかの地域の学校だと、お昼御飯も、密じゃなく離れていたら食べていいよというのを決めている地区が多くて、小金井は食べたらいけないので、一回帰って、食べて、もう一回集合して、午後練習するとかそういうのもあったりして、

いろいろお考えもあるんだと思うんですけども、どうして小金井は使えなかったのかなというのが、保護者の中では問題というか、どうしてかなというのが皆さん不満に思っていて、その辺りも、コロナがどうなっていくか、これから分からないんですけども、これからのことを考える上で、一つの意見としては、せっかく校庭があるんだから使いたいというのが、保護者の考えとして結構強くありました。

すみません、それも一緒に。なので、例えばこれをみんな、意見を言ってもらって、どのくらい反映されるのかなというのがちょっと気になっています。

津田主任 数値的な割合などはありませんが、やはり対象者の属性が固定できないということから、附属的ではあるけれども、子供たちのアンケートではこういう結果が出ていますねということで、審議するうえで共有する情報としたいと考えております。

木藤委員 分かりました。では、例えばコメント欄とかが、チェック欄しかない場合は、一番最後の意見のところとかに入れると送られるという感じで、意見として……。

津田主任 集計結果の中で、記述欄にあった記載をまとめて列記される形になるかと思います。

木藤委員 分かりました。ありがとうございます。

田中会長 こういうアンケートとか受けた場合に、この中の審議会だけで、別にクローズしている必要はないと思うんですよ。例えば小・中学校の結果を、校長会に反映していくとか、PTAのほうに、PTAかどうか分からないけど、こういう結果があるんだよ、みんなこんなふうに思っているんだよ、だからこれを何とか生かして、推進計画だけに別にとどめる必要はないと思うんですよね。

目的は、最初はそうだったかもしれないけど、ここにいろんな情報が入っているわけだから、それを、生涯学習ということを考えたりすれば、別にスポーツ推進計画の中だけでクローズしている必要はなくて、いろんな部署に、こういう結果があるからこれを反映さ

せてくださいということは可能だと思うので、どんどん、せっかく皆、労して答えてくれるわけだから、それをうまく活用していくというのはすごく大事なことだと思いますので、その辺を少し考えておいてほしいなど。

津田主任 学校関係とか健康部門などでしょうか、関係部署に共有するような方向で考えていきたいと思います。

田中会長 そうしたら、やった人もやったかいがあるというか、答えた人も、ただ数値として残っているだけじゃなくて、それが意見として反映されたり、市のほうに伝わっているということはすごく大切なことだと思います。書く気合が入りますよ、少しは。

長谷川委員 さっき、情報の発信の仕方、ツイッターということでおっしゃっていましたが、スポーツ推進の活動そのものを情報発信する場所というのは、それは何かあるんですか。

例えば今日の会議にしてもそうだと思いますし、スポーツ推進審議会委員として、2年間かけて計画して遂行していくというようなところを、活動していることを市民に知らせるということも重要だと思いますし、その中で、アンケートが流れてくると、スポーツ推進というのがあって、何か期待できるんだな、だからアンケートに協力しようかなと思うんですけども、なので、ツイッターがいいのか何か分からないですけど、SNSとかで、この活動そのものがあるというところだとか、あと、2か月に1回、こういう会議体を持って、こういう場で話すという活動をしているんですということも含めて、発信したほうがいいのかというのは個人的に思います。

津田主任 市の他の審議会と同様に、会議録を議会事務局の情報公開コーナーと、第二庁舎の6階にある情報公開コーナーと、図書館のほうで公開しております。あと、ホームページでも公開しております。

今回、開催することについて、ホームページ、ツイッターで周知して、市報でも周知しております。

長谷川委員 ああ、そうですね。私が知らなかっただけで、はい。では、見る

ようにします。すみません。

田中会長 時間が大分たちましたけれども、これは言うておかなければいけないという御意見はありますか。

服部委員 冒頭に、アンケート内容の中にeスポーツは含まないのかといった御質問があつて、今回はそれを含まませんというお話だったかと思うんですけども、仮にこのアンケートで自由意見として、eスポーツに関して、例えば、もっと取り組んでほしいといったような意見が出た場合は、今後、我々の審議会の一つの議題として、それは取り上げるべきなんではないでしょうか。

津田主任 フィジカル、体のほうに限って、フィジカルeスポーツという形で1個、選択肢を追加したいと思います。

 そこで、eスポーツについて大きな反響、回答が多いということであれば、それを踏まえ審議を進めたいと考えております。

服部委員 そうですね。フィジカルeスポーツだけではなくて、今、本当に、いわゆるテレビゲーム的なeスポーツというのは、かなりはやってきていると。

 先日、私、テレビで見たんですけども、シニアの方でも結構、eスポーツというのがつながってきていまして、いわゆる心身の心のほうの、認知症の予防ですとかああいうのに役に立ちますということで広がっていているという実態がありますので、もしそういう意見が多い場合には、我々審議会は、一つのスコープの中にそれを入れちゃっていいものではないかという質問なんですけれども。

津田主任 さらに広く、体を動かさないテレビゲームのような内容まで含めると、スポーツの範囲からちょっと外れてきてしまうので、事務局としては難しいところです。

服部委員 仮定の話ですので、そういう意見が来たらどうしようかなと思ったんですけども、我々の審議会の取り扱う内容としては、いわゆるテレビゲーム的なeスポーツというのは外しますということで、皆さん合意されるということではないでしょうか。

ランドブレイン株式会社 当然、今回新たにまた、今回のスポーツ推進計画としての理念なり目標というものを話す機会もございます。アンケート結果で、仮に幅広いeスポーツが多く出たときに、今回、皆さんで定めていく理念と、そういったeスポーツがかなうものにするかどうかというところを御審議いただければいいのかなと思っております。

服部委員 一応、審議内容としては取り上げるということでよろしいんですかね。

野川委員 eスポーツでフィジカルとか、ビジュアルとか、いろいろやったりすると多分、回答しづらくなるので、ただ単にeスポーツというふうにして、どの程度の反響があるかだけ、今回、見ればいいんじゃないですか。と思います。

御存じのように、3年前の国体から、文化プログラムとしてeスポーツが入ってしまいましたので、3種目は、ぷよぷよとウイニングイレブン、あとはカーレースなんですよ。インディ500ですか。みんな座ったままやっているわけですよ。だから、体はほとんど動かしていないので、これはあまりよくないんじゃないのと思いつつも、そこまで言えないから、そのときは。

でも、いろいろeスポーツが今、いっぱい出てきているので、例えば、太鼓の達人もeスポーツの一つですし、一番最初のはやりは多分、ダンスダンスレボリューション、覚えていらっしゃるでしょう。あれがすごくよかったということで、実は認知症にいいというのが、カナダのほうの発表でもあるんですよ、特に高齢者は。

そういうことも含めて、eスポーツをあまり狭く言わないで、今回は、eスポーツにどの程度興味を持っている人たちがいるのかというのを調べられるといいのではないかと思います。

田中会長 よろしいでしょうか。そのほか。

それでは、今まで出ました意見、いろいろありましたけれども、状況をまとめていただいて、アンケート、調査ですね。調査を上手にできるように御尽力いただきたいと思います。

ということで、この議題はこれで終わりにしたいと思いますけど、

よろしいでしょうか。

続きましては、(6) 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュール(案)について、事務局から御説明をお願いします。

津田主任 議題の(6) 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュール(案)について、御説明いたします。

資料10を御覧ください。

前回の御意見を踏まえて、資料記載の日程を第4火曜日に設定しております。日程調整をした際に、次回は6月28日の予定だったんですけれども、今回のアンケート調査の方法の変更によって、全部集計のため、6月は開催せず、次回を7月26日としております。

ただ、現在の審議で、今の状況でアンケートを確定できないかなと思っておりまして、もう一回審議をするか、もしくはメールで皆さんとやり取りさせていただいて決めていくか、また後日、相談させていただこうと思います。

田中会長 よく理解できなかつたんですけど、このまま調査ができない。

津田主任 たくさん御意見をいただいたので、今回で決定というのがなかなか難しいかなと思いました。

田中会長 7月にもう一回やるということですか。

津田主任 もう一回やるか、メール等でやり取りさせていただいて、作り直すかを想定しています。

田中会長 私の認識では、そんな大幅に変わっていないような気がしたんですけど、ですから、項目がちょっと増えたりになっているところがあるので、それがまとまった時点で一回、皆さんにメールを送っていただいて、それを返していただいて、それで、こういう案でいきますということを決定して、メール審議みたいにして……。

津田主任 では、メールでの確認とします。

田中会長 1か月、2か月遅らせたなら、どんどん遅れていってしまうので。

津田主任 もう一度練り直したものを、皆さんにメールでお送りいたします。

田中会長 はい。

調査は大切なんですけど、本丸は推進計画をつくることであって、その声を聴くための調査票なんですけど、それが全て物語っているわけではないと思うんですよ。

というのも、どれだけ回収されるか分かりませんが、今までの答えだと、3割から、うまくいって4割ということを見ると、一生懸命作ってもらって、送りますけれども、完璧なものまで行かなくても、今、言われた御意見を上手に作れば、できるんじゃないかなと思いますので、事務局のほうは大変かもしれませんが、そういうふうにしていただければと思います。

津田主任 では、そのようにさせていただきます。

田中会長 相談には乗りますので。

では、一応、次回は7月ということで……。

津田主任 はい。次回は7月26日ということで、9月の日程について、また調整させていただこうと思います。

田中会長 審議会スケジュールはそのようにしたいと思います。

続きましては、最後になりますが、その他ということで、事務局のほうから何かありますでしょうか。

津田主任 事務局からお願いが2件ございます。

初めに、先ほど御説明しましたウェブアンケートについて、委員の皆様のお知り合いにもお声がけをお願いしたいと考えております。

開始する際に、皆様にメールをお送りしますので、御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

次に、開催通知や会議録の校正の通知について、前回の会議録の校正については、郵便とメールを併せてお送りさせていただいたところなんですけど、今、郵便料にあまり余裕がないところから、メー

ルでの送付のみで対応可能という方がいらっしゃれば、そのように
させていただきたいと考えています。

会議の後、事務局からお伺いさせていただきますので、よろしく
お願いいたします。

事務局からは以上でございます。

田中会長 メールで開催通知と会議録校正を送るということですね。

田中会長 予定された議題は以上ですけれども、委員の皆様から何か御意見
等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、御意見もなさそうですので、本日、第1回目のスポー
ツ推進審議会を閉会させていただきます。ちょうど2時間ぐらいで、
よかったかなと思います。

本日はどうもありがとうございました。

— 了 —